

2020年5月22日

各位

会社名 株式会社リロググループ
 代表者名 代表取締役社長 中村 謙一
 (コード: 8876 東証第一部)
 問合せ先 専務取締役 門田 康
 (TEL 03-5312-8704)

特別損失(減損損失)の計上及び通期業績予想と実績との差異に関するお知らせ

当社は、2020年3月期において、特別損失(減損損失)を計上することとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。それに伴い、2019年5月14日に公表いたしました2020年3月期の業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2020年3月期通期通期連結業績予想と実績値との修正(2019年4月1日~2020年3月31日)

	売上高	税金等調整前 当期純利益	親会社株主に 帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2019年5月14日公表)	百万円 280,000	百万円 22,500	百万円 14,100	円 銭 93.50
実績値(B)	313,019	11,235	3,818	25.35
増減額(B-A)	33,019	△ 11,264	△ 10,281	
増減率(%)	11.8	△ 50.1	△ 72.9	
(ご参考)前期実績 (2019年3月期)	250,864	19,076	13,005	87.20

2. 特別損失(減損損失)の内容及び差異の理由

2020年3月期は、借上社宅管理事業や賃貸管理事業における管理戸数、福利厚生代行サービスの会員数など主力事業のストック基盤が順調に積み上がった他、ホテル運営や不動産仲介など周辺事業の業績も伸張するなど当社グループの各事業が順調に推移した結果、経常利益については増益となり、11期連続で最高益を更新しました。加えて、BGRS Limitedや株式会社駅前不動産ホールディングスなどを連結子会社としたことなどから、売上高は期初予想を上回る結果となり、20期連続増収となりました。

一方、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響などにより、世界経済が縮小し、人の移動が制限されていることから、BGRS Limitedについて、将来収益獲得能力等を保守的に勘案し今後の事業計画を見直した結果、のれんについて帳簿価格を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上することといたしました。これに伴い、減損損失9,504百万円を計上したことなどから、税金等調整前当期純利益及び親会社株主に帰属する当期純利益について、期初予想を下回る結果となりました。

なお、剰余金の配当に関しては、2020年5月22日付で公表しております「剰余金の配当に関するお知らせ」のとおり、17期連続増配となる1株当たり29円とすることいたしました。

以上